

小豆島ふるさと村再整備事業における民間活力導入サウンディング調査の結果について

1. 調査の目的

小豆島ふるさと村は、平成3年の供用開始以来、本町の観光・レクリエーションの拠点として親しまれてきましたが、施設の老朽化が進み、多様化する観光ニーズへの対応が課題となっています。

本町では「小豆島ふるさと村全体整備基本計画」に基づき、民間活力を導入した全面的なリニューアルを検討しています。本調査は、参入意向のある民間事業者との対話を通じて、市場性や事業条件を把握し、次年度の事業者公募に向けた最適な事業スキームを策定することを目的として実施しました。

なお、本調査は、香川県内における PPP/PFI の普及拡大を目的に、内閣府及び国土交通省から認定を取得した「かがわ PPP/PFI 地域プラットフォーム」の活動（第15回）の一環として実施し、株式会社百十四銀行地域サステナビリティ推進部から多大なご協力をいただいております。



位置図（広域図）



施設内マップ(小豆島ふるさと村 HP より)

2. 調査対象地

小豆島ふるさと村は、昭和49年に国民宿舎小豆島が供用開始以来、様々な施設や機能の拡充を図ってまいりました。現在では、国民宿舎は供用から50年以上が経過し、その他の施設も供用から30年以上経過している施設がほとんどであり、老朽化が顕著となっています。

3. 調査の経緯

項目	スケジュール
実施要領の公表	令和8年1月8日
ヒアリングの実施	令和8年2月2日～令和8年2月6日 令和8年3月9日～令和8年3月13日

4. 調査の参加状況

対話の参加者・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15社

5. 調査結果の概要

調査結果につきましては、業種毎に様々なご意見をいただきました。なお、内容によっては、複数の事業者からの意見又は単独事業者からの意見等がありますので、ご留意願います。

① 導入機能・活用アイデア

滞在機能の強化として、海への眺望を活かした簡易な宿泊施設の整備や、サウナ・全天候型広場の活用などのほか、海を活かしたマリンアクティビティ等体験の導入。

海の拠点化として、瀬戸内エリアでのマリナー不足を背景に、栈橋施設の新設、拡充による「海の駅」としての機能強化と賑わい創出。

自由度の高い開発を希望。既存の枠組みにとらわれず、施設配置を含めた広範な提案を可能とする公募条件への期待。

② 事業スキーム・公募条件

事業期間は、多額の初期投資を回収するため、15年から30年以上の長期的な事業期間を求める意見が多く出されました。

官民の役割分担は、老朽化した施設の解体撤去費や、公共性の高い基盤整備については町による負担や補助を求める要望がありました。

昨今の資材高騰や物流コスト、離島特有の天候リスクを考慮した柔軟な支援策の検討が求められました。

③ 離島ならではの留意点

収支計画において、天候による来島者数の変動や、維持管理コストの増大に留意する必要があるとの指摘がありました。

6. 今後の対応方針

本調査の結果を踏まえ、町では以下の点に重点を置いて事業化の検討を進めます。

公募条件の最適化を図ります。事業者の投資意欲を高めるため、事業期間の長期設定や、適切なリスク分担・費用負担のあり方を募集要項に反映します。

段階的な事業展開も含めた検討を進めます。令和7年度の「宿泊ゾーン」先行公募に準じて、参入意向が確認されたゾーンの公募も検討しつつ、エリア全体の価値向上を図ります。

基盤整備の検討としては、事業者が創意工夫を発揮しやすいよう、町が担うべきインフラ整備や解体等の範囲について精査を行います。

7. その他

本調査への参加実績は、今後の事業者公募等における評価に対する影響はありません。

また、公募に関する具体的なスケジュールが決まりましたら、小豆島町のホームページ等で公表する予定です。